

全国納税貯蓄組合連合会会長賞

『過去から今、そして未来を』

関川村立関川中学校 3年

高橋 まき さん

「いよいよ年貢の納め時だ！」。刑事ドラマや時代劇などで良く耳にするこのフレーズ。この言葉の語源は滞納していた年貢を納めなければならないということで、江戸時代にできた言葉だそうだ。年貢とは今でいう税のこと。そう、私たちは江戸時代、それ以上の前の時代から税と関わってきたのだ。

税と聞くと難しく、深く私たちに関わりが無いように感じるが、歴史を見てみるとどうだろう。明治時代の地租改正、安土桃山時代の太閤検地、飛鳥・奈良時代の租・調・庸など。そして税のはじまりは、卑弥呼の時代。邪馬台国では税制度があったという記述があるそうだ。私たちの産まれるずっと前から税はあり、先祖様たちは携わってきた。それに幕府に米を納める年貢イコール税と考えると、税というものがなんとなく理解できる。

今の時代を築き、私たちの生活と常にとともにある税に、あまり良くないイメージを持ってしまうのにも、歴史が関係してくるのだろう。租・調・庸とともにあった兵役や防人、上の階級の者が自分たちの生活のために課した重い税、増税に苦しみながらも協力した悲しい戦争。私たちは税に必ず良好な関係で携われてきたわけではない。税の印象が悪くなっていくのもわかる。そして2019年、私たちの消費税は10パーセントへと上がる。だいたいがお小遣い制

の私たち中学生にとって、決して優しいものではない。「竹槍でどんとつき出す二分五厘」とあるように、集団で反対運動を起こすのはどうだろう。もしかしたら、消費税アップを止めることができるかもしれない。

そんなことを祖父に話すと「確かにのぉ。」と笑っていたが、同時にこんなことも言われた。

「消費税が上がるのは、お前たちの将来のためだぞ。」と。

私たちは必ず年を取る。高齢者となったとき、頼るのはやはり税金だ。しかし、今の日本は少子高齢化社会。社会保障費の増加が予想される一方、その費用を負担する人が減ってきている。おそらく、少子高齢化は、私たちが大人、高齢者になっても続くのだろう。世代を問わず、一人ひとりが満足のいく生活をおくれる社会にするために、消費税の引き上げが決定されたのだと気付くことができた。

時代とともに変化しながらも、今まで私たちの歴史とともに歩んできた税金。理解すればするほど、その重要性が見えてくる。そうすれば、義務だから払うのではなく、私たちの今と、未来の社会のためと思って、気持ちよく堂々と税と向き合えるのではないだろうか。税は負うのではなく、携わるものとして、私たちは未来へと、
またともに歩んで
行くのだと思う。

